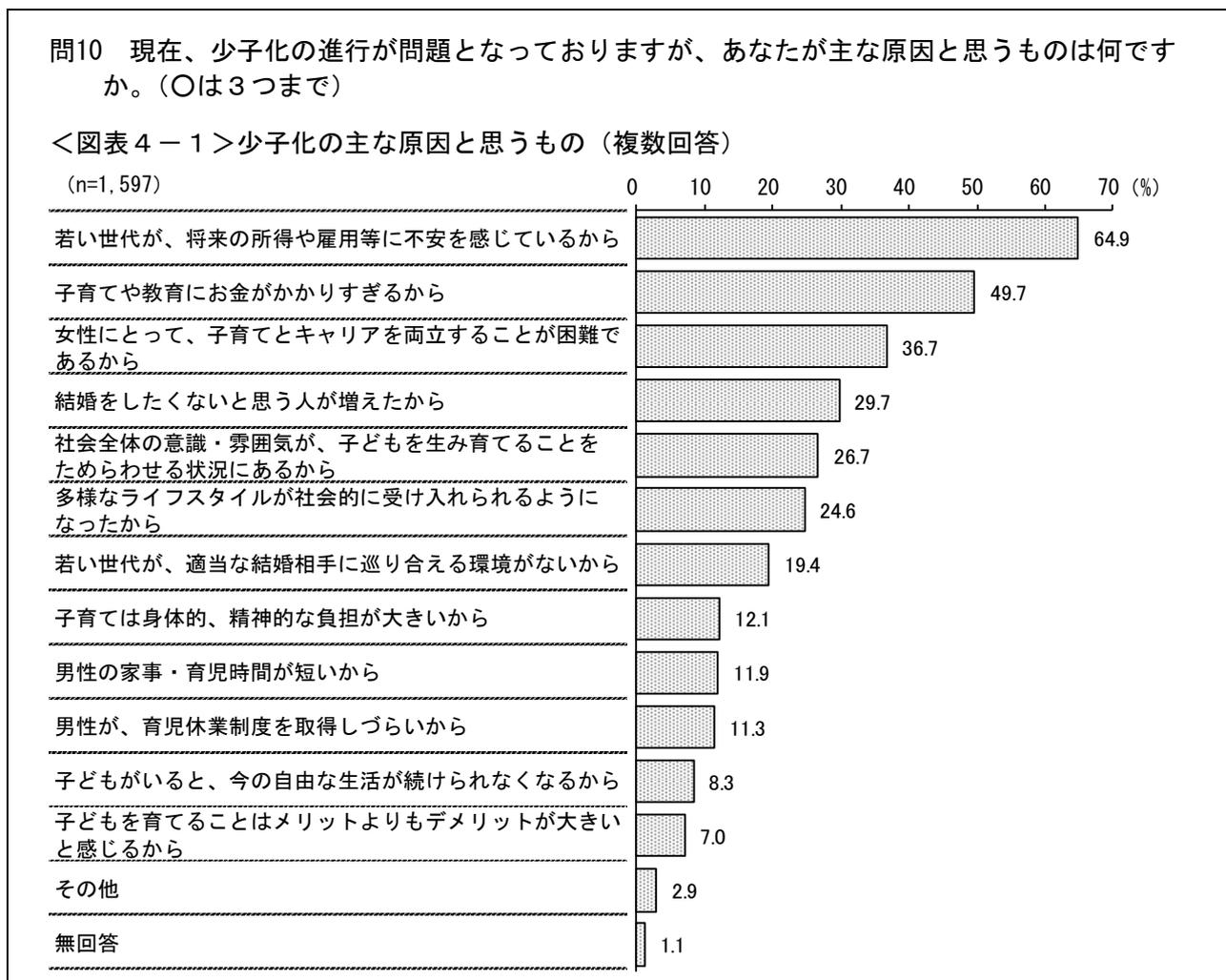


## 4 少子化対策について

### （1）少子化の主な原因と思うもの

◇「若い世代が、将来の所得や雇用等に不安を感じているから」が6割台半ば



少子化の主な原因と思うものについて聞いたところ、「若い世代が、将来の所得や雇用等に不安を感じているから」（64.9%）が6割台半ばで最も高く、以下「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」（49.7%）、「女性にとって、子育てとキャリアを両立することが困難であるから」（36.7%）、「結婚をしたくないと思う人が増えたから」（29.7%）が続く。（図表4-1）

#### 【地域別】

地域別にみると、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」は“安房地域”（71.0%）が7割を超えて高くなっている。（図表4-2）

#### 【性・年代別】

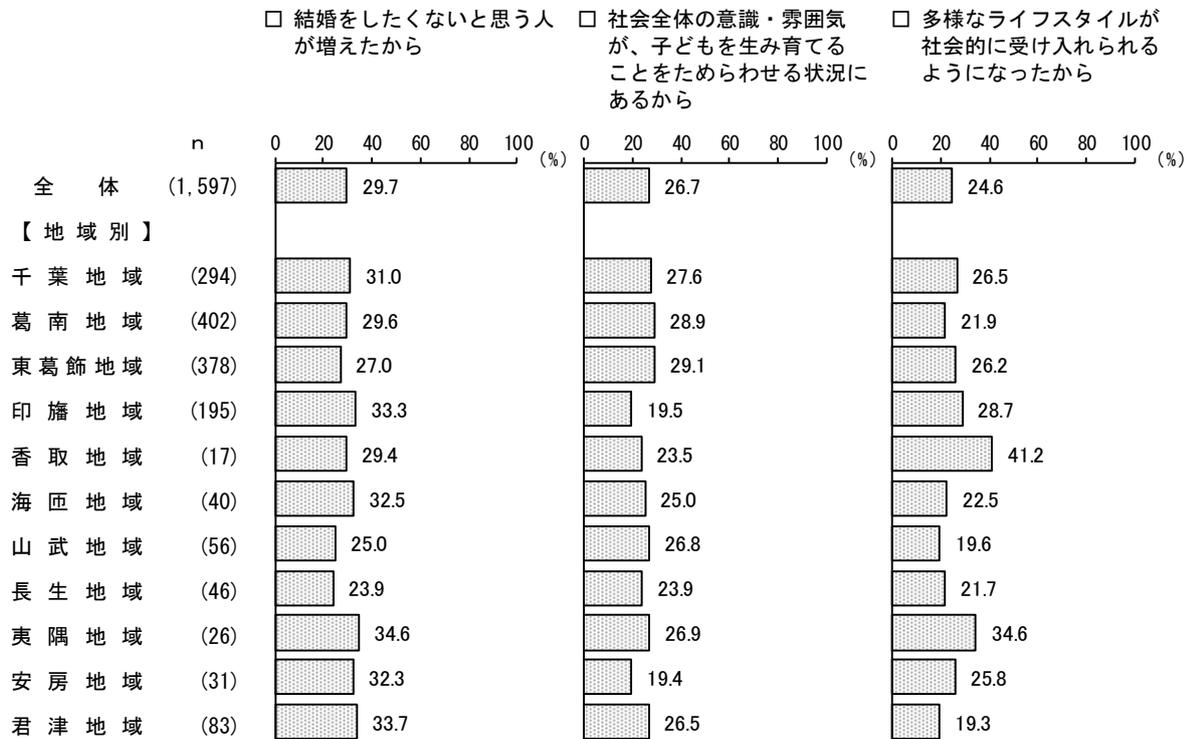
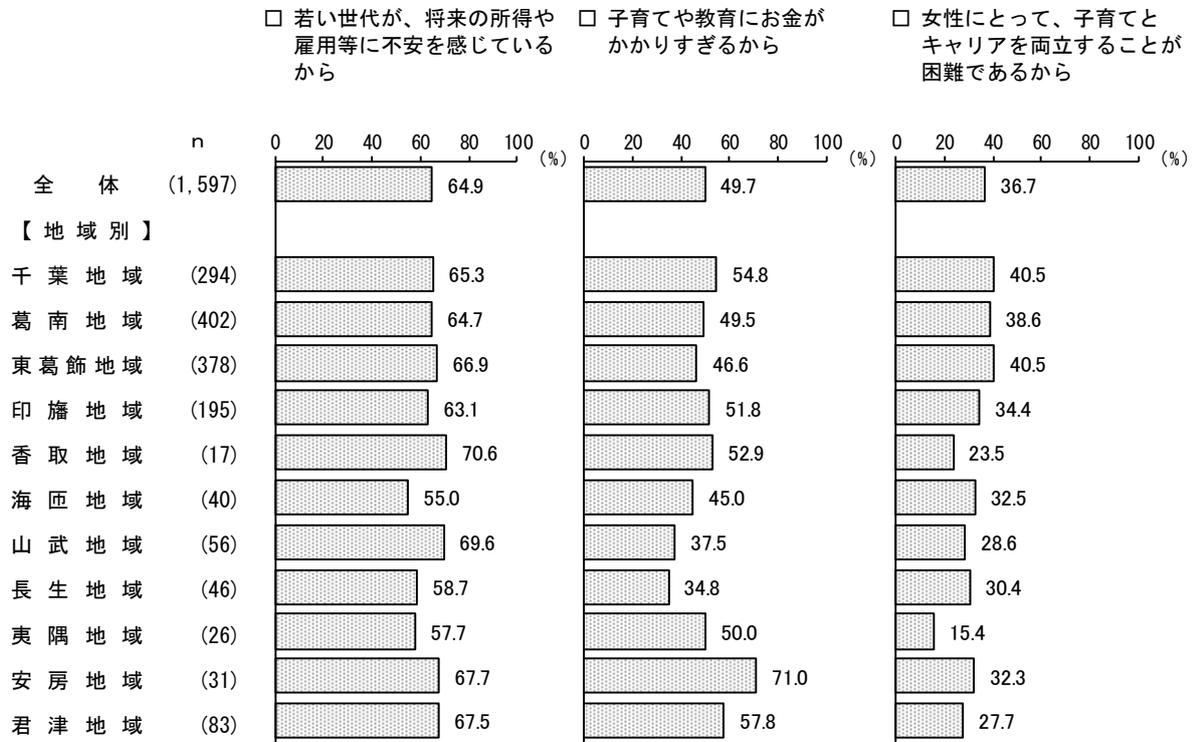
性・年代別にみると、「若い世代が、将来の所得や雇用等に不安を感じているから」は、男性の60～64歳（79.0%）と女性の20代（77.4%）が約8割で高くなっている。

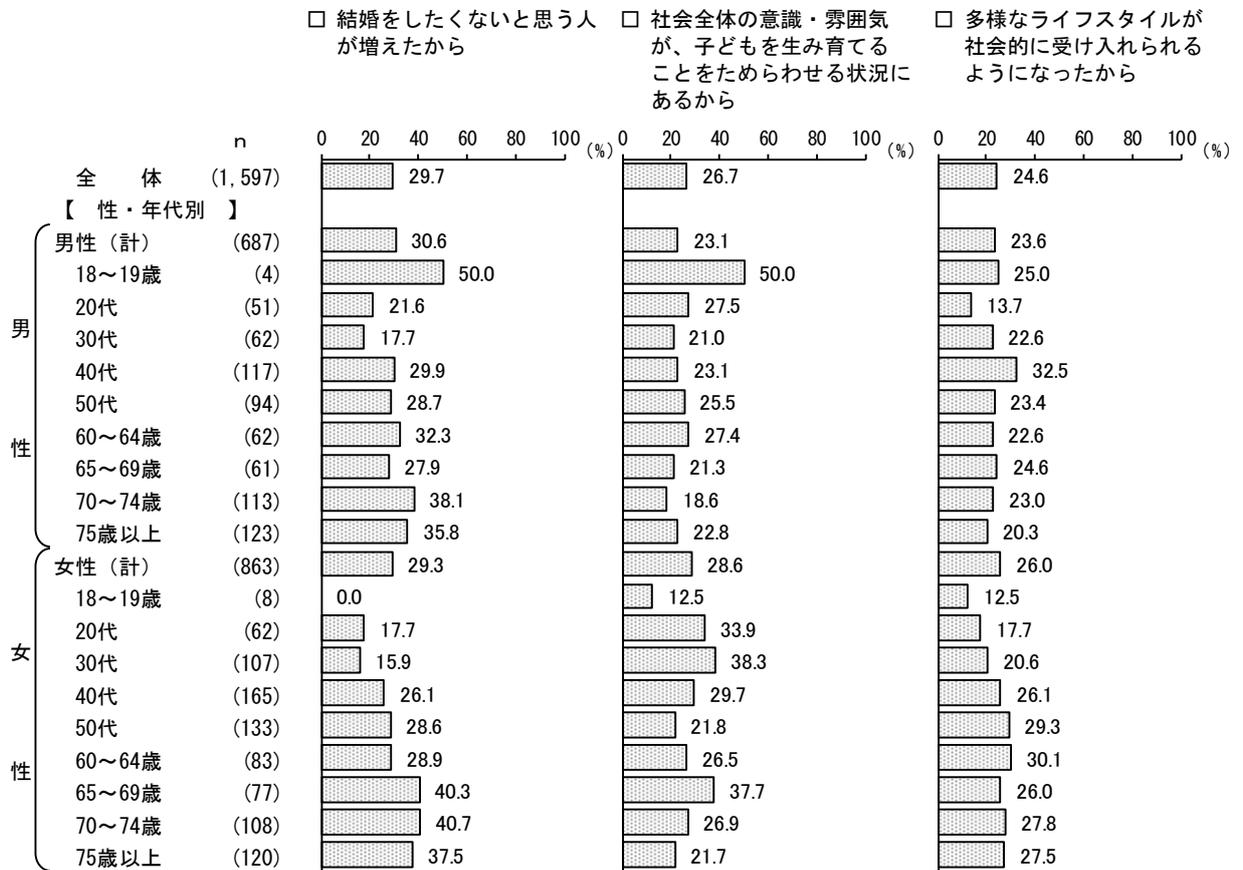
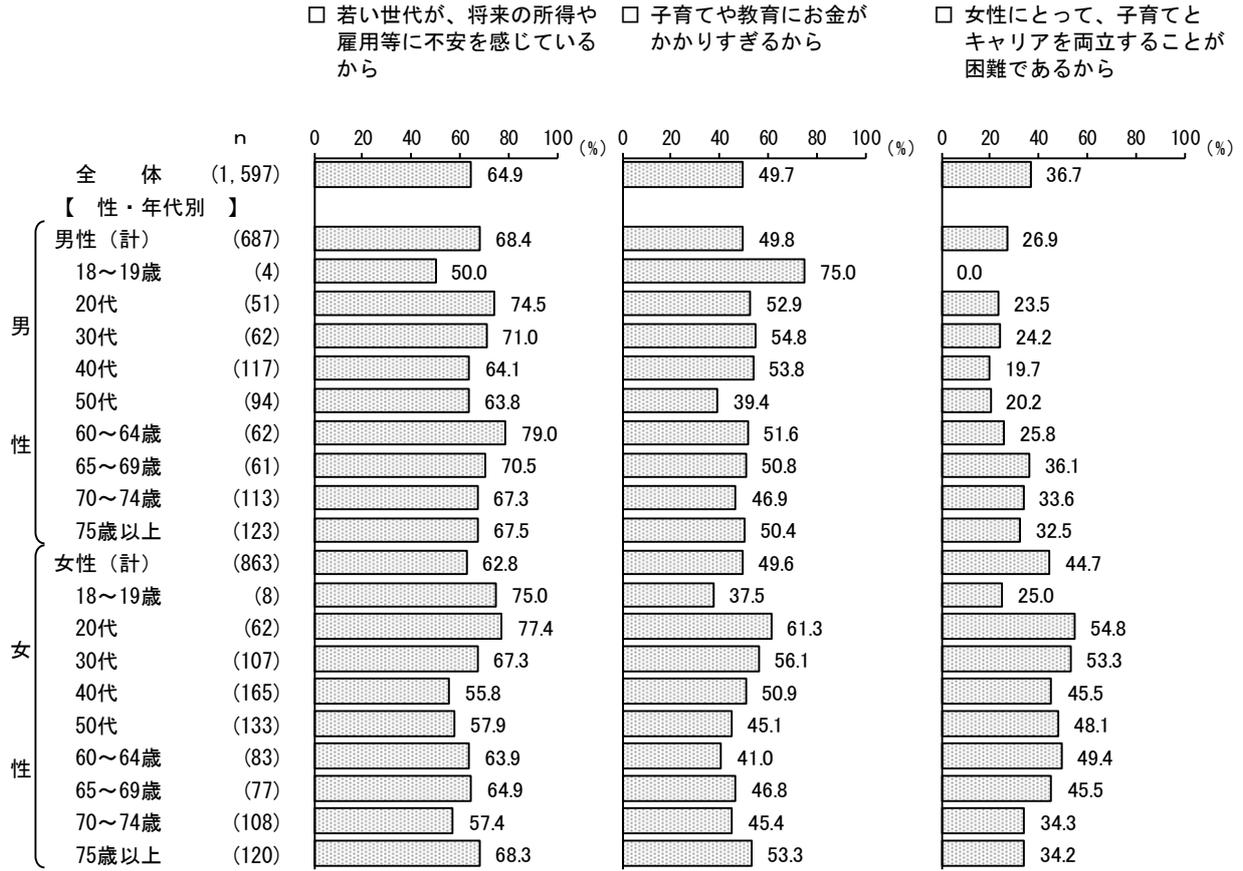
「女性にとって、子育てとキャリアを両立することが困難であるから」は、女性の20代（54.8%）が5割台半ば、女性の30代（53.3%）が5割を超え、女性の60～64歳（49.4%）と女性の50代（48.1%）

が約 5 割、女性の 40 代（45.5%）が 4 割台半ばで高くなっている。

「結婚をしたくないと思う人が増えたから」は、女性の 70～74 歳（40.7%）と女性の 65～69 歳（40.3%）が 4 割、男性の 70～74 歳（38.1%）が約 4 割で高くなっている。（図表 4－2）

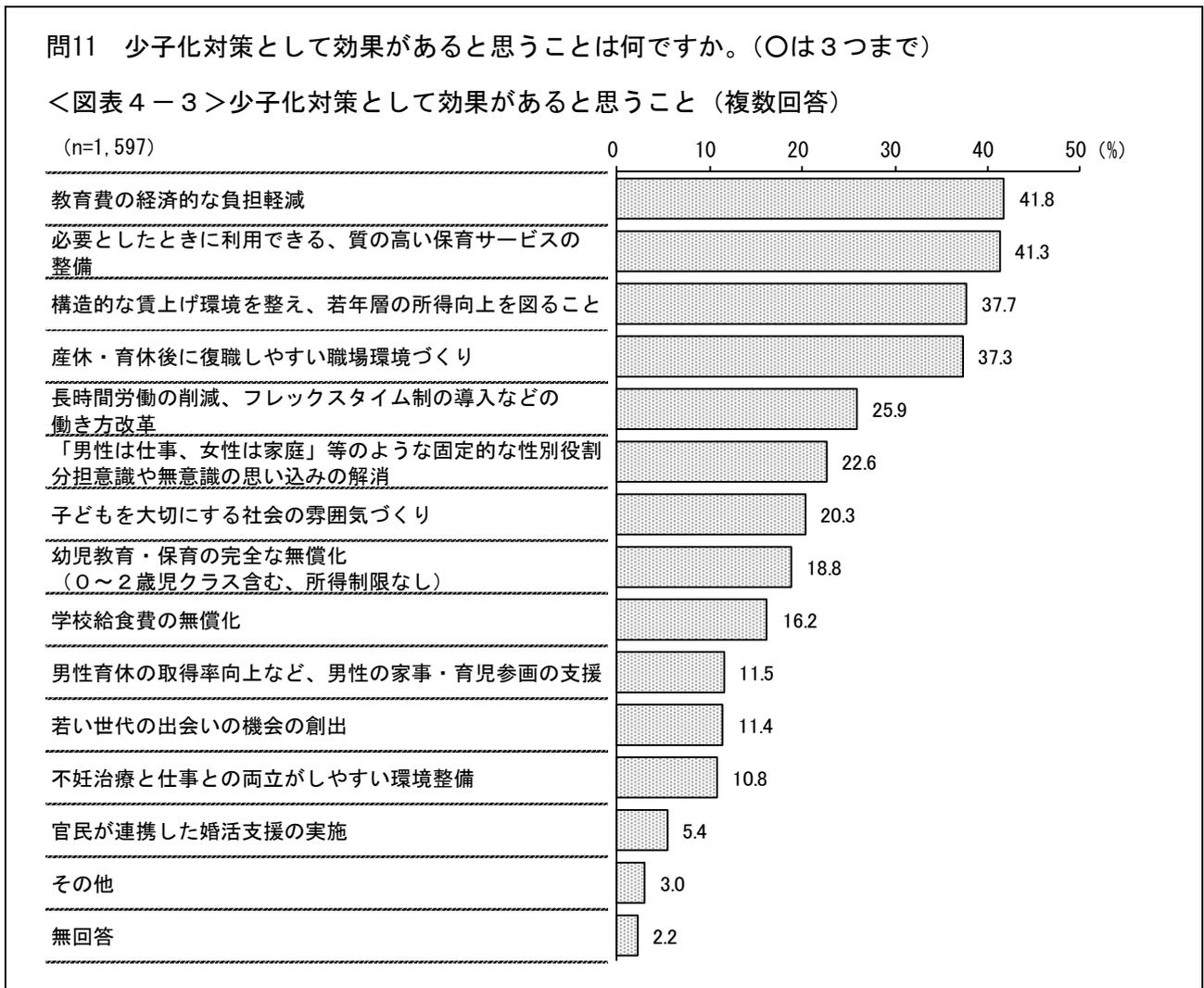
＜図表 4－2＞少子化の主な原因と思うもの（複数回答）／地域別、性・年代別（上位 6 項目）





## （２）少子化対策として効果があると思うこと

◇「教育費の経済的な負担軽減」が４割を超える



少子化対策として効果があると思うことについて聞いたところ、「教育費の経済的な負担軽減」（41.8%）が４割を超えて最も高く、以下「必要としたときに利用できる、質の高い保育サービスの整備」（41.3%）、「構造的な賃上げ環境を整え、若年層の所得向上を図ること」（37.7%）、「産休・育休後に復職しやすい職場環境づくり」（37.3%）が続く。（図表 4-3）

### 【地域別】

地域別にみると、「教育費の経済的な負担軽減」は“安房地域”（67.7%）が約7割、“君津地域”（53.0%）が5割を超えて高くなっている。（図表 4-4）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「教育費の経済的な負担軽減」は、男性の40代（51.3%）が5割を超えて高くなっている。

「必要としたときに利用できる、質の高い保育サービスの整備」は、女性の60～64歳（56.6%）と女性の65～69歳（55.8%）が5割台半ばで高くなっている。

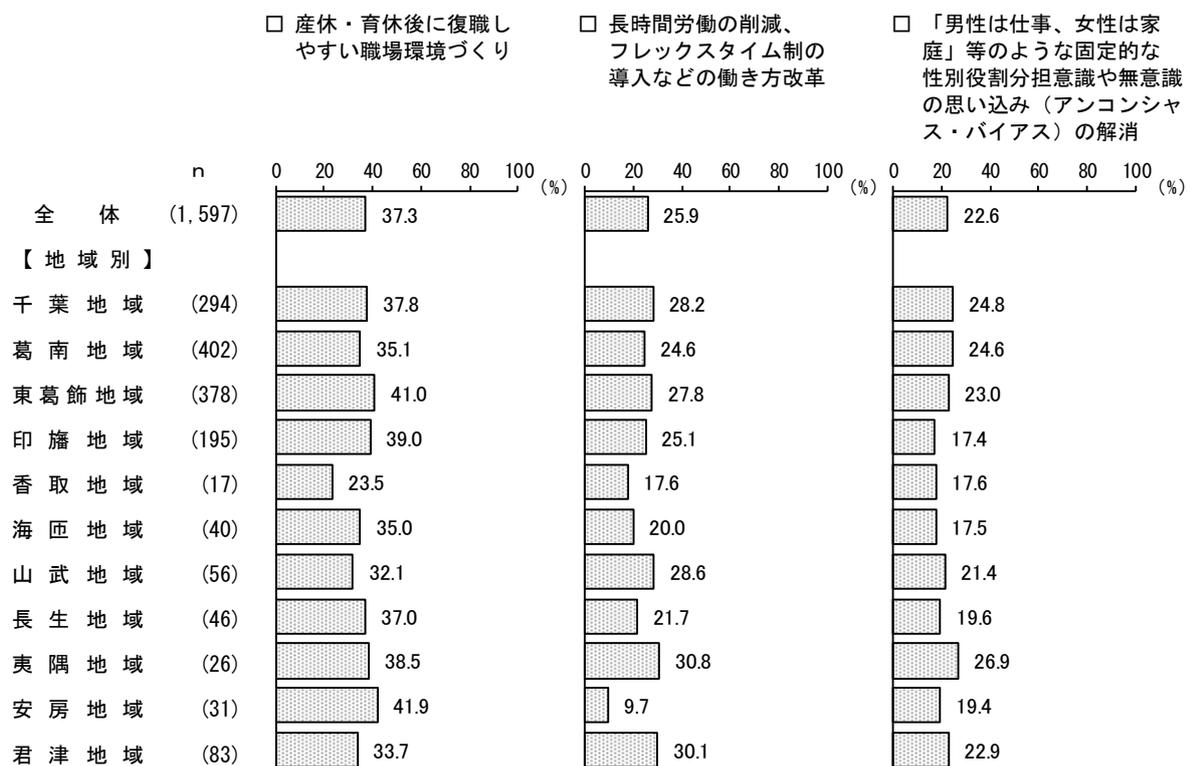
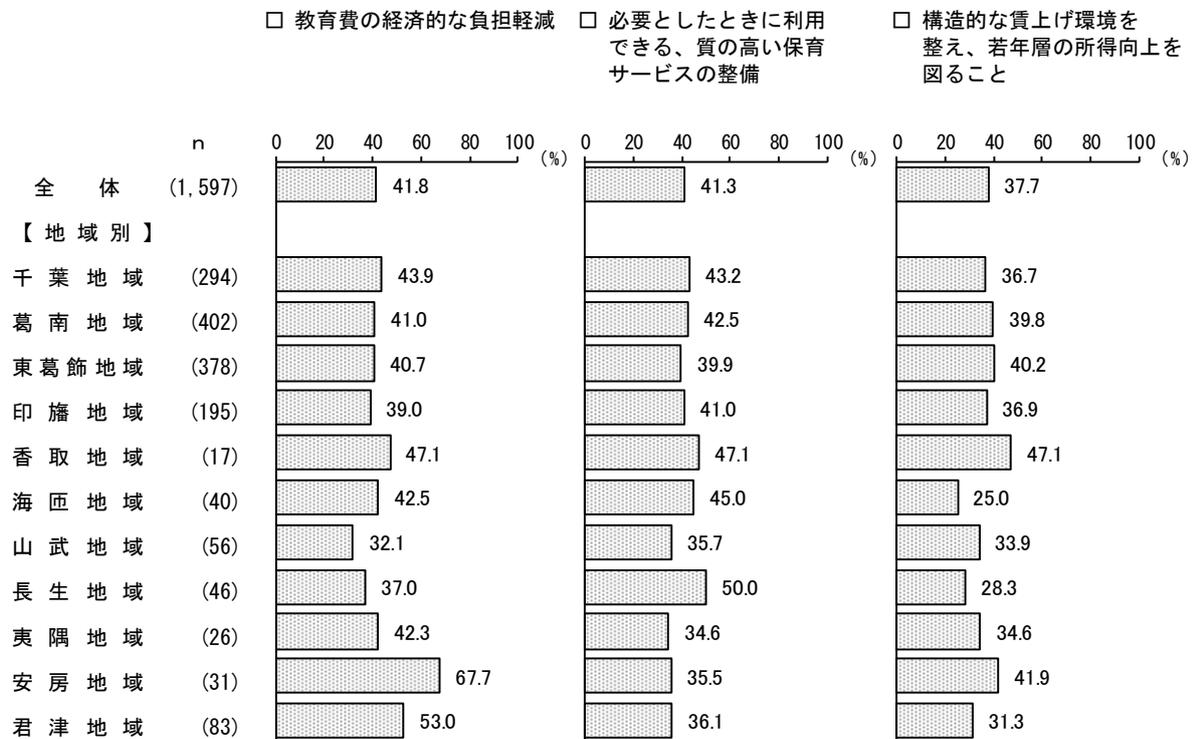
「構造的な賃上げ環境を整え、若年層の所得向上を図ること」は、男性の20代（56.9%）が5割

台半ば、男性の30代（50.0%）が5割、女性の30代（46.7%）が4割台半ばで高くなっている。

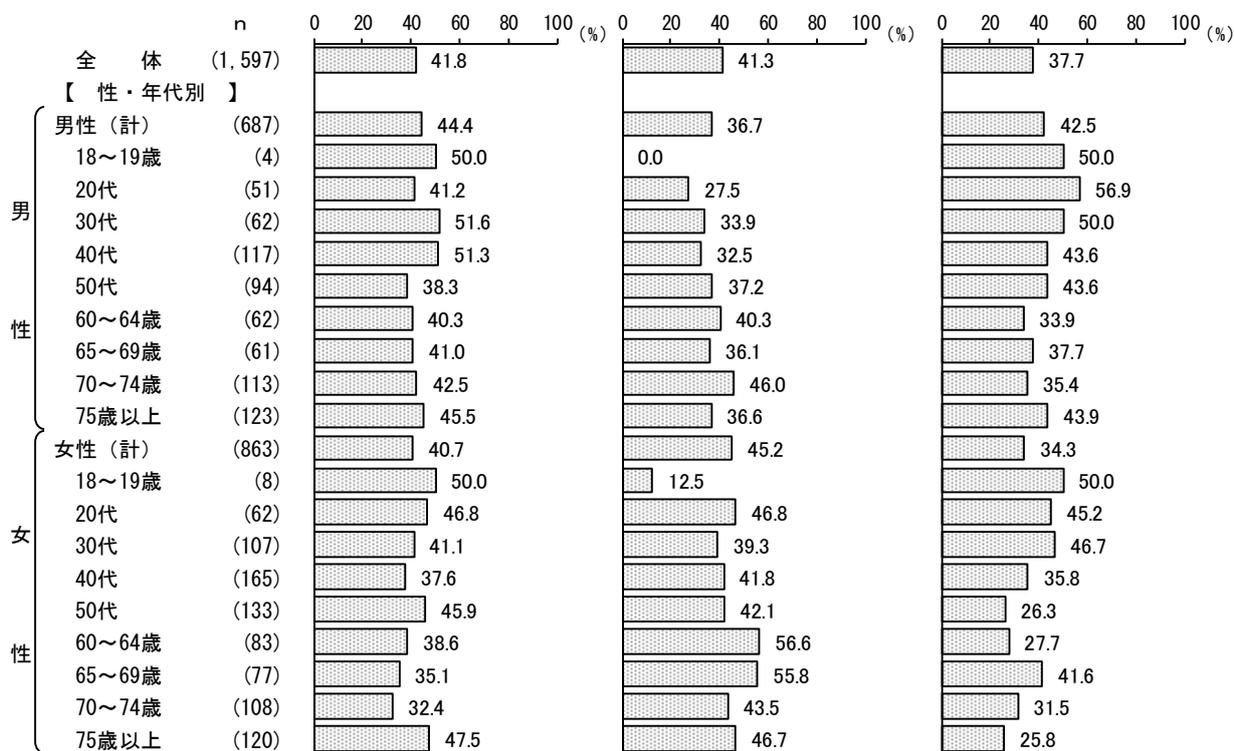
「産休・育休後に復職しやすい職場環境づくり」は、女性の20代（51.6%）が5割を超えて高くなっている。（図表4-4）

<図表4-4>少子化対策として効果があると思うこと（複数回答）

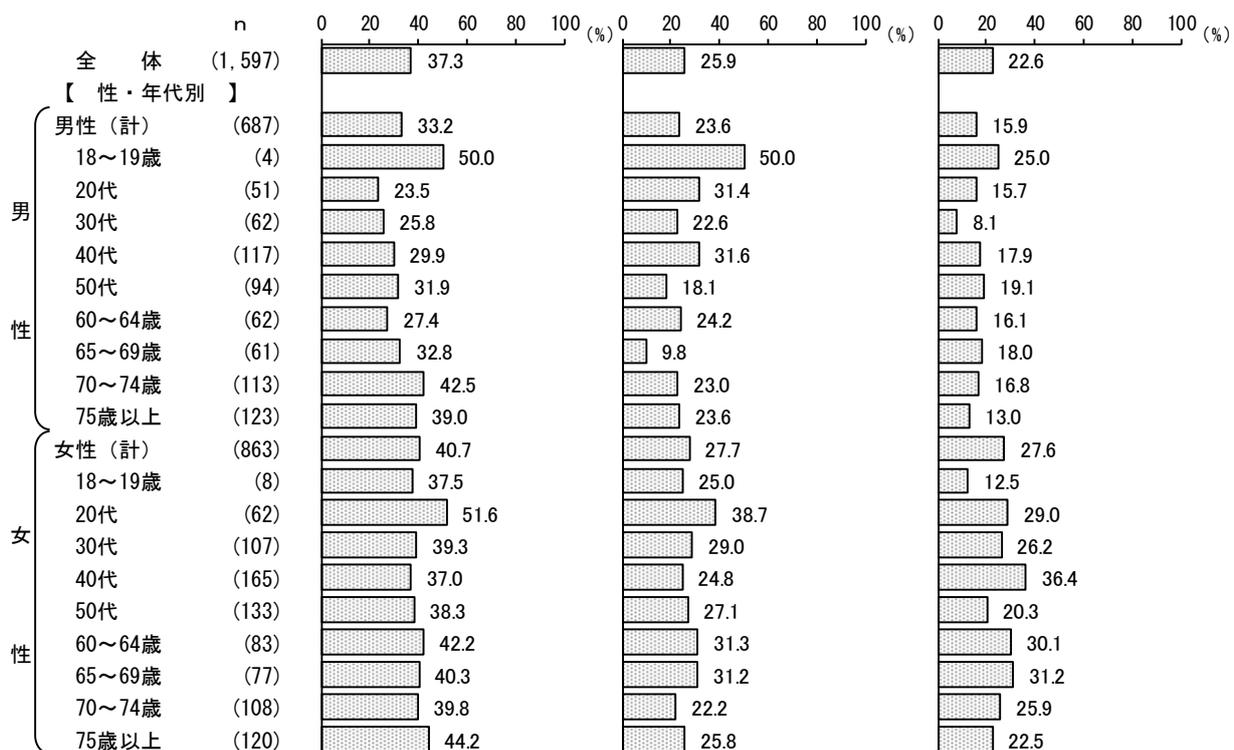
／地域別、性・年代別（上位6項目）



- 教育費の経済的な負担軽減
- 必要としたときに利用できる、質の高い保育サービスの整備
- 構造的な質上げ環境を整え、若年層の所得向上を図ること

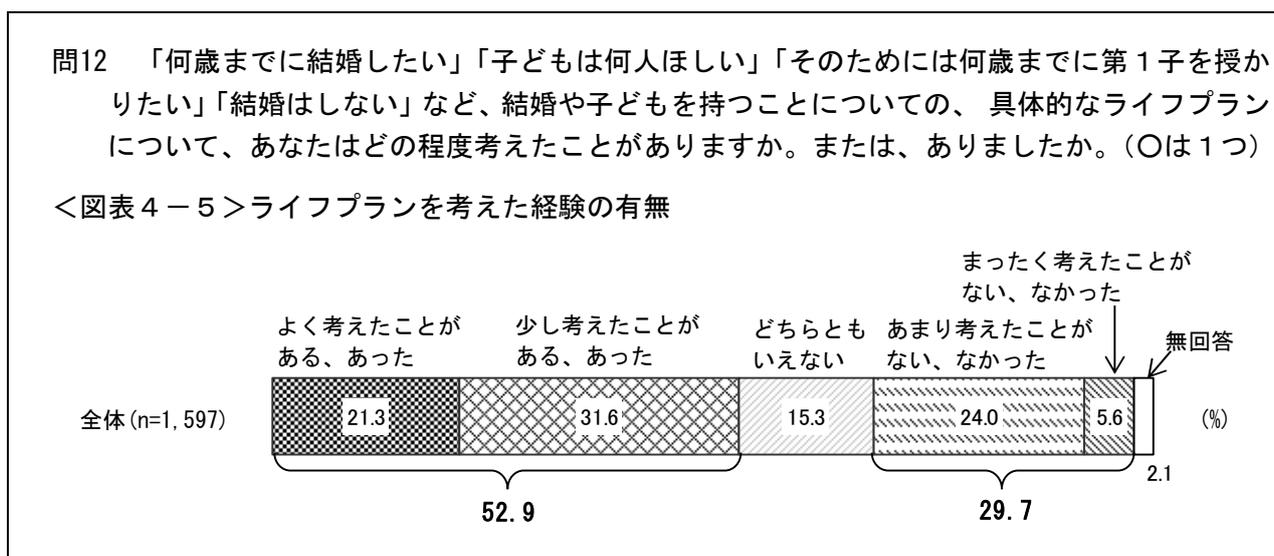


- 産休・育休後に復職しやすい職場環境づくり
- 長時間労働の削減、フレックスタイム制の導入などの働き方改革
- 「男性は仕事、女性は家庭」等のような固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消



### （3）ライフプランを考えた経験の有無

◇『考えたことがある、あった（計）』は5割を超える



ライフプランを考えた経験の有無を聞いたところ、「よく考えたことがある、あった」（21.3%）と「少し考えたことがある、あった」（31.6%）を合わせた『考えたことがある、あった（計）』（52.9%）は5割を超える。

一方、「あまり考えたことがない、なかった」（24.0%）と「まったく考えたことがない、なかった」（5.6%）を合わせた『考えたことがない、なかった（計）』（29.7%）は約3割となっている。

（図表4-5）

#### 【地域別】

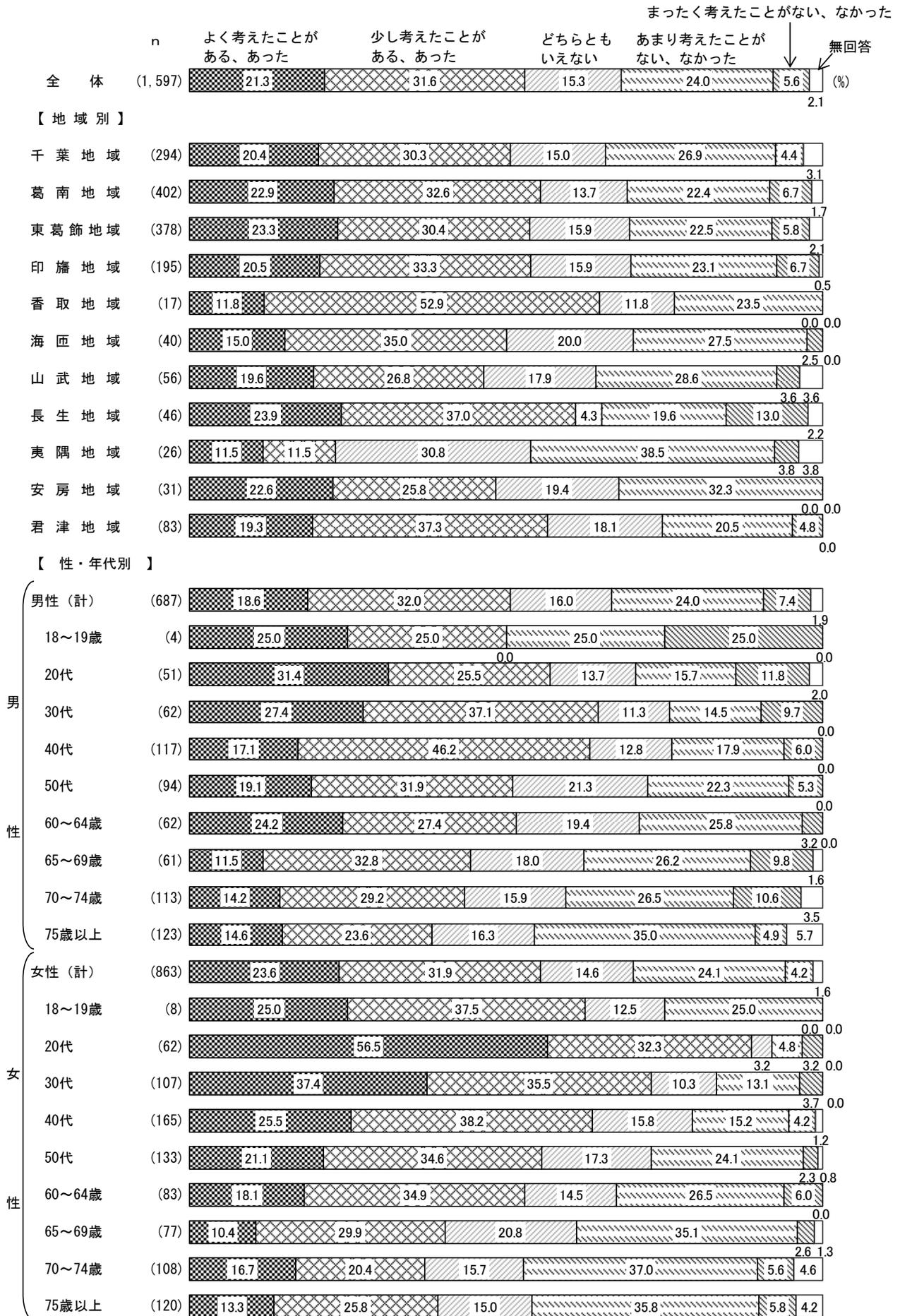
地域別で大きな傾向の違いは見られない。（図表4-6）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『考えたことがある、あった（計）』は、女性の20代（88.7%）が約9割、女性の30代（72.9%）が7割超え、女性の40代（63.6%）と男性の40代（63.2%）が6割を超えて高くなっている。

一方、『考えたことがない、なかった（計）』は、女性の70～74歳（42.6%）と女性の75歳以上（41.7%）が4割を超え、男性の75歳以上（39.8%）が約4割で高くなっている。（図表4-6）

＜図表4-6＞ライフプランを考えた経験の有無／地域別、性・年代別



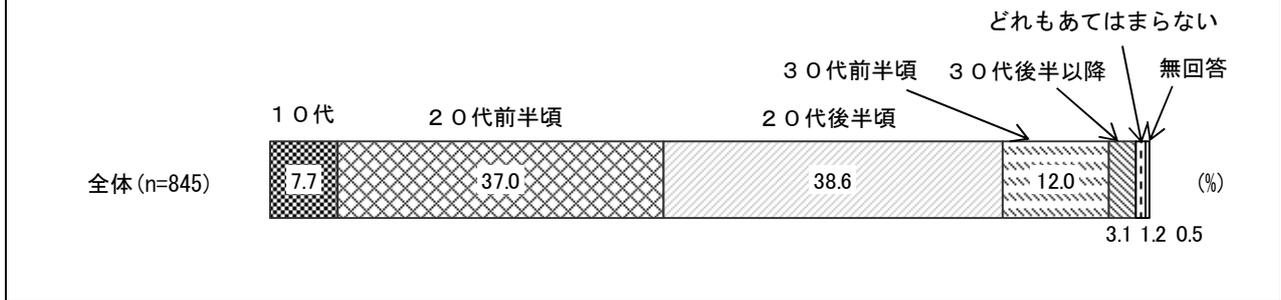
### （3-1）ライフプランを考え始めた年齢

◇「20代後半頃」が約4割

（問12で「よく考えたことがある、あった」または「少し考えたことがある、あった」とお答えの方に）

問12-1 自身やパートナーとの結婚や妊娠・出産、子育てに関する将来のライフプランを真剣に考え始めた年齢はいつですか。（〇は1つ）

＜図表4-7＞ライフプランを考え始めた年齢



ライフプランを考えた経験がある、あったと回答した845人を対象に、ライフプランを考え始めた年齢を聞いたところ、「20代後半頃」（38.6%）が約4割と最も高く、以下「20代前半頃」（37.0%）、「30代前半頃」（12.0%）、「10代」（7.7%）と続く。（図表4-7）

#### 【地域別】

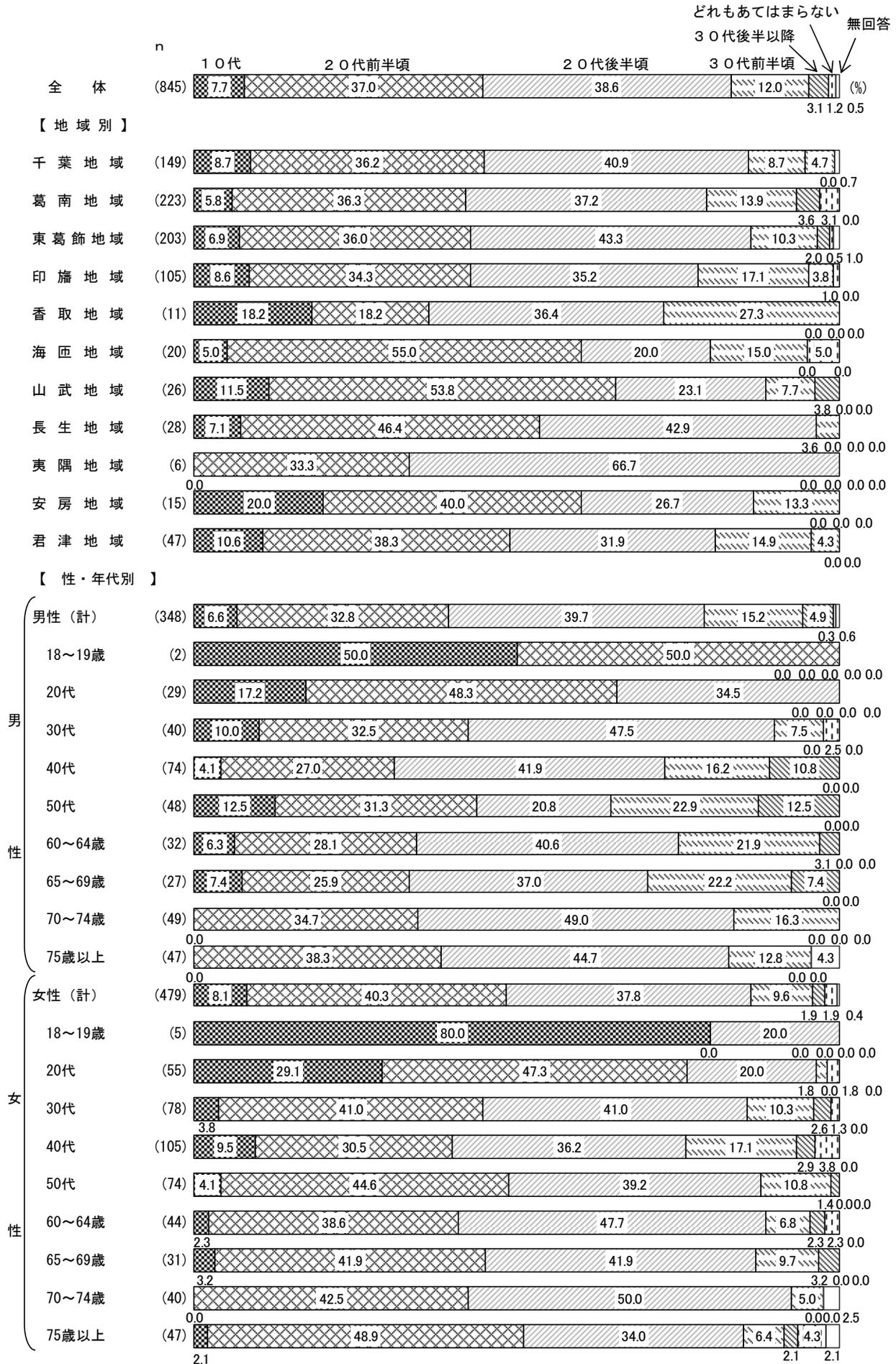
地域別で大きな傾向の違いは見られない。（図表4-8）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「30代前半頃」は、男性の50代（22.9%）が2割を超えて高くなっている。

「10代」は、女性の20代（29.1%）が約3割で高くなっている。（図表4-8）

<図表4-8>ライフプランを考え始めた年齢／地域別、性・年代別



このほかにも、「少子化対策について」や問10～問12について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、277人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「少子化対策について」の自由回答（抜粋）

- 子育ての大変さや経済的なデメリットを問題として取り上げるよりも、結婚や子どもがいることの良さなどをもっとアピールするのよよいと思う。  
（女性、50代、千葉地域）
- 子育てする為の所得が少なくて将来産まれてくる子供に十分な教育、贅沢をさせることが出来ないから子供を作るのが難しい。  
（男性、20代、葛南地域）
- 今でも支援はありますが、やはり子どもがいる家庭にお金やサービスが提供・支援されるのは心強いです。これらをもっとアピール・発信することが安心して子どもを育てる意識が出てくると思いました。  
（女性、18～19歳、東葛飾地域）
- 都会はどうしても核家族にならざるを得ない。であるならば公的機関の支援はどうしても必要。金銭的なことよりも精神的な負担を減らせられるような施策を拡充する必要があるのでは。  
（男性、65～69歳、印旛地域）
- 教育費の高騰など、今の若者世代の子育てはとても厳しい現実がある。特に女性は仕事のキャリアにも大きな障害となる可能性もあり、現状のままでは子供が欲しくても諦めざるを得ない人が多い。安心して生み、育てられる環境作りが一刻も早く必要だと思う。男性の「長時間労働は会社に貢献」という時代遅れな認識を改める必要がある。共同で子育てを行えば女性の負担が減り、子育てがしやすくなると思う。  
（男性、60～64歳、葛南地域）
- 若い人が働きやすい環境を作る事。  
（女性、75歳以上、君津地域）
- 学校教育に関する費用は国が完全に負担して貰いたい。また、18歳までの医療費の無償化が望ましい。  
（男性、50代、君津地域）
- 色々な無償化を進めるより、子育てしやすい周囲のコミュニティーをもうけて、人どうしが支え合える場をもっと必要。  
（女性、40代、葛南地域）
- 正直に言うと結婚をして子供を生むのは周りの手助けが大切ですが、それ以前に覚悟が必要です。その覚悟が出来てないから少子化になっていると思っています。（男性、30代、海匝地域）
- 子どもを持たないことを選択した人の権利も守られるべきである。また、子どもを持ったものの育てることに困難を感じる人や望まない妊娠をした人などと、子どもを持ちたくても持てない人とを、うまく繋いでいく必要がある。養子縁組制度や里親制度を見直し、産まれた子どもの命と人権を守る仕組みを整える事が必要とされていると思う。少子化対策として、さらに子どもを増やすという視点も大切だが、今ある命を守っていく、守れる制度を整えてほしい。  
（女性、30代、東葛飾地域）